



大阪市大・関連病院における 患者・医療従事者に向けた肝炎啓発活動

市民と医療者を繋ぐプロジェクト

- 主担当者** 榎本大准教授・打田佐和子講師・藤井英樹特任講師・元山宏行病院講師・河田則文教授（医学研究科）
- 関係組織・協力機関等** 大阪市立大学医学部附属病院
- 連携・協力者** 大阪府健康医療部地域保健課、国立国際医療研究センター肝炎情報センター
- 期間** 2008年7月～現在



1 きっかけと展開

- 2015年の全国肝臓がん死亡者数は28,889人であり、部位別のがん死亡では、肺、大腸、胃、膵臓に次いで第5位となっている。また大阪府における同死亡者数は2,386人で、年齢調整死亡率では全国平均を上回っている。一方、その原因の大部分はB型肝炎、C型肝炎などの慢性肝疾患が占めており、適切に治療することで肝臓がんの発症を抑えられることが示されている。
- B型肝炎、C型肝炎の治療は過去にはインターフェロンが主体でその効果は限定的であったが、B型肝炎に対しては2000年から、C型肝炎に対しては2014年から飲み薬による治療が可能となり、ウイルスを確実に抑制または排除出来るようになった。ところが肝疾患には自覚症状が乏しいことから、罹患を知らないまま、または知っていても受診をしない潜在患者が多数いると推定される。そこで検診等の機会を通じて、すべての国民が一生に一回は肝炎検査を受検し、陽性が判明すれば確実に病院を受診し、そこから肝臓専門医に紹介され適切に受療することが重要である。
- 我が国では「肝炎対策基本法」をもとに、感染予防対策、無料肝炎検査や医療費助成、肝疾患診療連携拠点病院の整備等により肝炎対策が総合的に推進され、2008年7月～大阪市大病院も肝疾患診療連携拠点病院として、さまざまな活動を行ってきた。

2 概要

1. 市民に対する啓発活動

- 肝臓病教室**：大阪市大病院では患者さんを対象とした肝臓病教室を定期的に開催している。具体的には医師より最新の治療法、看護師より日常生活の留意点、薬剤師より服薬指導、栄養士より栄養指導など必要な知識を分かりやすく伝えるため、多職種が協力して行っている。最近では「おしゃべりコーナー」を設けるなど、患者さんとの双方向のコミュニケーションが出来る雰囲気作りに努めている。
- 地域住民を対象とした市民公開講座**：2017年からは「出張肝臓病教室」と題して、関連病院においても同様の企画を展開している。2015年からは世界保健機構が定めた7月の世界肝炎デーに、地域住民が広く参加できる市民公開講座を開催している。このイベントでは、医師による最新治療の講座だけでなく、参加者から募集した質問にアドバイスや解説を行うフリートークセッション、管理栄養士を目指す学生などによる栄養チェックコーナー、肝臓の硬さを測る検査を体験できるフィブロスキャンコーナーなど、盛りだくさん企画で参加者の興味を惹いている。

2. 医療者に対する啓発活動

- 院内における医療連携強化に向けた試み**：2013年、大阪市大病院では全国に先駆けて電子カルテシステムを利用した受診勧奨システムを構築し、潜在する肝疾患患者の拾い上げに成功した。その効果については、同様のシステムを関連病院にも拡散することにより既に検証済みである。2015年からは全職員を対象とした医療安全講習などの機会に、肝疾患の最新治療について周知・啓発を図っている。
- 院外における医療連携強化に向けた試み**：疾患啓発に関しては、2008年～肝疾患診療連携拠点病院として一般医療従事者を対象とした医療講演会も定期的に開催し、最新情報のアップデートに努めている。2017年からは関連病院における医療安全講習を開始し、2018年からは肝疾患コーディネーター養成のため講習会も企画している。

3 成果や課題

(1) 得られた成果

- 大阪市大病院では上記のような試みを始めてから院内紹介数が増加している。例えば、2013年に電子カルテシステムを利用した受診勧奨システムを導入した前後で、月当たりの紹介患者数は18.8±5.7例→29.0±4.5例に増加した。この成果は積極的に厚労研究会議、消化器・肝臓関連学会や学術論文誌上で報告し、同システムは全国に拡がり潜在患者の発掘に貢献している。
- 大阪市大病院では院外からの紹介数も増加しており、2014年に経口抗ウイルス治療が導入されて以来、全国でも有数と言える950人以上のC型肝炎患者に治療を行っており、そのほとんどがウイルス排除に成功している。

(2) 地域との関係で工夫した点

- 肝臓病教室、市民公開講座などのイベント参加者にはリピーターが多く、新たな参加者を発掘するため新しい企画に趣向を凝らしている。2017年の肝炎デーイベントでは新聞広告や折り込みチラシを活用し広範な地域に広報することで、300名の定員を上回る参加希望者を確保することに成功している。
- 医療講演会においては、医師会の生涯教育認定を行うことにより、また糖尿病や感染症など他分野の講演と同時開催することにより新規参加者を増やす試みを行っている。
- 大阪府には5つの肝疾患診療連携拠点病院があり、連絡協議会や肝炎対策ブロック戦略会議などの機会を通じて意思疎通を図るようにしている。

(3) 感想と今後の課題

- B型肝炎、C型肝炎に対する治療の進歩により肝臓がんによる死亡者数は減少傾向にあるが、非アルコール性脂肪性肝疾患など生活習慣関連の肝臓がんが増加している。市民に対する啓発の今後の課題として、食事、運動などの生活習慣を含む身近な話題をより多く取り上げていく必要がある。
- 医療従事者に対する啓発の今後の課題として、医師のみならず歯科医、看護師、薬剤師、臨床検査技師など、患者と接する機会のあるすべての職種に働きかけていく必要がある。

(事例報告者：榎本大)



2017年7月30日おおさか肝炎デーイベント



医療安全講習の風景（医局HPを通じて広報）



2017年9月9日出張肝臓病教室



肝臓病教室の風景